

オオナンバンギセル *Aeginetia sinensis* G.Beck.

【評価理由】

草地性の植物で、愛知県では過去に採集された標本はあるが、現存を確認できない。

【形態】

ナンバンギセル *A. indica* L. に似ているが全体にやや大きく、花冠は明るい紅紫色で長さ 3.5～4.5cm、裂片は開出し、直径 2～2.5cm になる。がくは横から見ると楕円形（ナンバンギセルでは通常卵形）で先端は鈍頭、花冠裂片の辺縁には細かい歯牙がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（茶白山，山田英吉 426, 1956-8-15）と 3 東栄（振草村小林，鳥居喜一 21613, 1945-8-4, HNSM）で採集された標本がある。

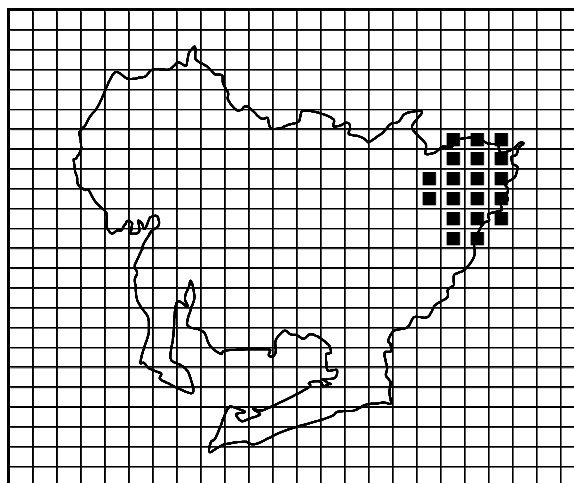
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の草地に生育し、スゲ類やノガリヤス類に寄生する。

|     | 山地 | 丘陵 | 平野 | 海浜 |
|-----|----|----|----|----|
| 森林  |    |    |    |    |
| 草・岩 | ○  |    |    |    |
| 湿地  |    |    |    |    |
| 水域  |    |    |    |    |

【過去の生育状況／絶滅の要因】

生育状況については情報がない。おそらくは草地の減少によって絶滅したものと思われる。

【保全上の留意点】

ていねいに探索すれば、再発見の可能性は残されている。

【特記事項】

花冠裂片が広く開出するのが特徴である。がくの先端が鈍頭であること、花冠裂片辺縁に小歯牙があることでナンバンギセルと異なるとされることが多いが、これらは必ずしも明確な区別点ではない。

【関連文献】

保草本 I p. 125, 平草本III p.134, 平新版 5 p.150.